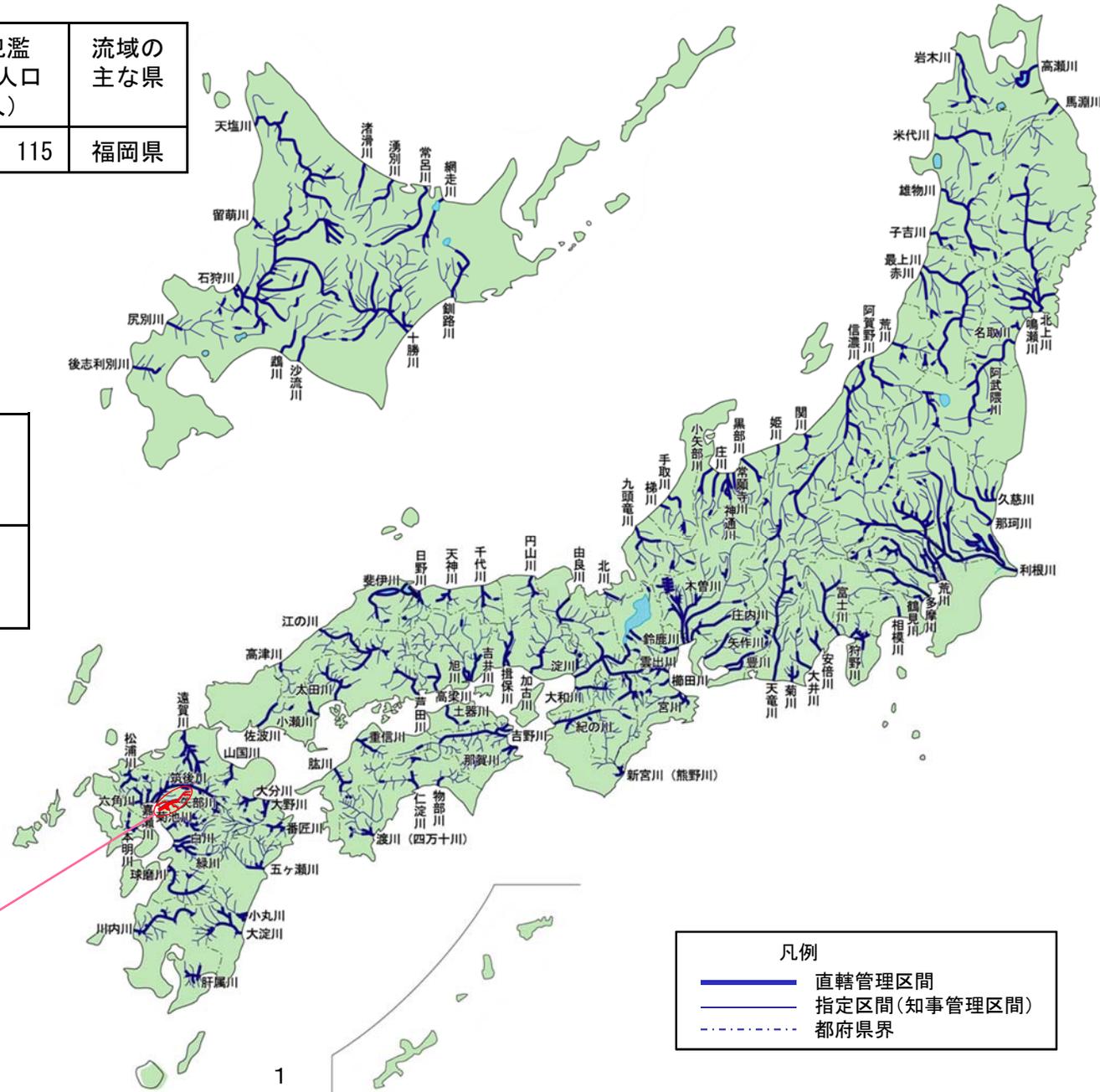


河川整備基本方針の変更概要 (矢部川水系)

審議対象水系

水系名	流域面積 (km ²)	幹川流路延長 (km)	流域内人口 (千人)	想定氾濫区域内人口 (千人)	流域の主な県
矢部川	647	61	170	115	福岡県



	本日の 河川分科会での 審議水系	1水系
	河川整備基本方針 策定済み水系	109水系

矢部川

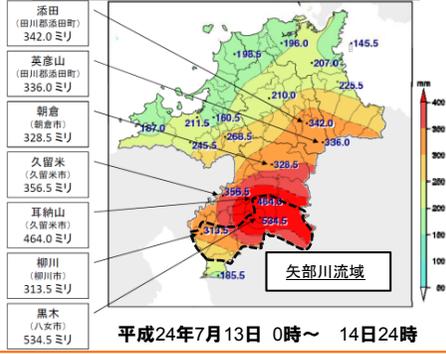
凡例	
	直轄管理区間
	指定区間(知事管理区間)
	都府県界

平成24年7月洪水（九州北部豪雨）の概要

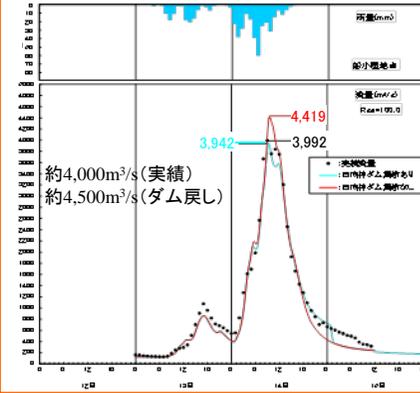
平成24年7月13日から14日にかけて発生した梅雨前線に伴う記録的な豪雨によって、矢部川の船小屋水位観測所（基準地点）においてピーク水位が既往最高水位を約2m上回り、約5時間にわたってはん濫危険水位を超える観測史上最大の洪水が発生した。これにより、矢部川及び沖端川で堤防が決壊（矢部川1カ所、沖端川2カ所）し、柳川市など4市で1,808戸の床上・床下浸水が発生する甚大な被害となった。

等雨量線図

■ 矢部川流域に強い雨域が集中



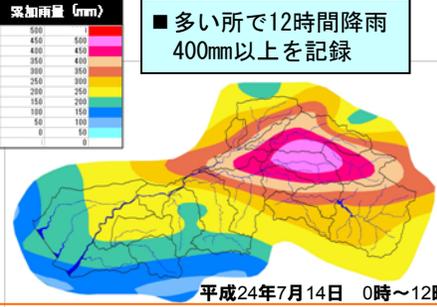
H24洪水雨量・流量



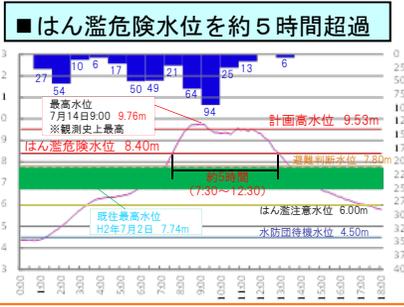
主な洪水被害

- 洪水の特徴 : 船小屋水位観測所において約5時間にわたって「はん濫危険水位」を超過
- 矢部川の状況 : 国管理区間において基盤漏水により堤防が決壊（1カ所）
- 沖端川の状況 : 福岡県管理区間において越水により堤防が決壊（2カ所）
- 浸水被害 : 矢部川沿川および沖端川沿川において1,808戸の家屋・事業所等が浸水

等雨量線図（矢部川流域）



水位の状況（船小屋）

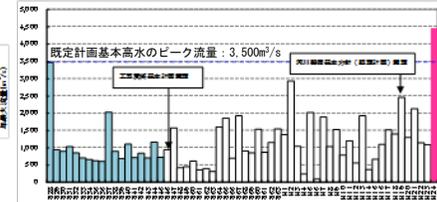


■ 浸水状況



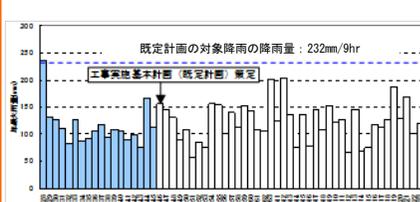
年最大流量

- 過去60年間で第1位
- 基本高水のピーク流量を超過



年最大9時間雨量

- 過去60年間で第1位
- 既定計画の対象降雨の降雨量を超過



矢部川水系河川整備基本方針変更の概要

流域及び河川の概要

- 矢部川は、福岡、大分、熊本の3県にまたがる三国山に源を発し、日向神峡谷を流下し、中流域において支川星野川を合わせ、さらに辺春川、白木川、飯江川等を合わせながら筑後平野を貫流し、下流域において、沖端川を分派して有明海に注ぐ。
- 天井河川である特性を活かし、筑後平野の農業用水の大半を供給。
- 廻水路やクリークを使った複雑で高度な水利慣行が維持されている。

流域及び氾濫域の諸元

流域面積 : 647km²
 幹川流路延長 : 61km
 想定氾濫区域内人口 : 約11.5万人

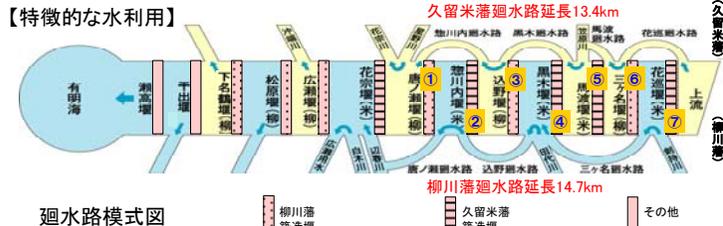
矢部川



【流域図】



【特徴的な水利用】



廻水路模式図

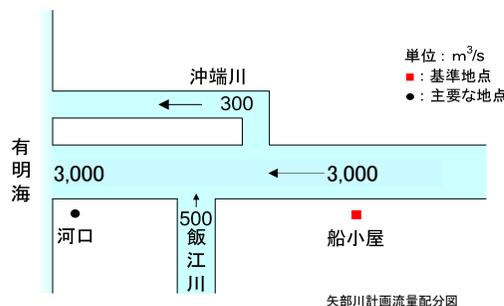
流水の正常な機能を維持するため必要な流量

流量調査や環境調査等、河川や流域における諸調査を踏まえ、クリーク等を介した複雑な農業用水の利用特性を把握した上で決定する。

基本高水のピーク流量、計画高水流量の変更

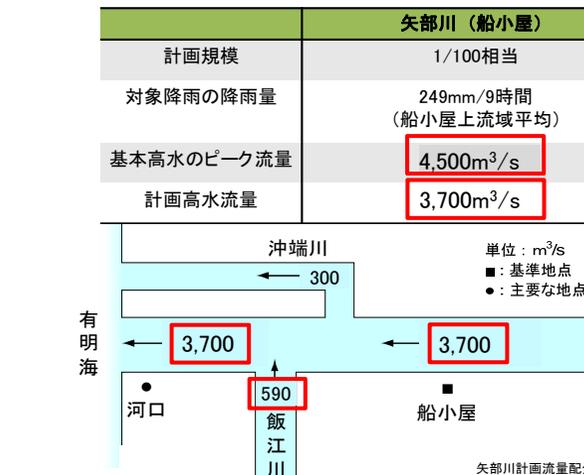
【既定計画の概要 平成19年11月策定】

矢部川 (船小屋)	
計画規模	1/100相当
対象降雨の降雨量	232mm/9時間 (船小屋上流域平均)
基本高水のピーク流量	3,500m ³ /s
計画高水流量	3,000m ³ /s



【変更計画の概要】

基準地点船小屋において**基本高水のピーク流量を4,500m³/sとし、洪水調節施設により800m³/sを調節し、計画高水流量を3,700m³/sとする。**



洪水調節施設については、関係機関と調整し既存施設の有効活用を図るとともに、新たな施設により対応する。

河川整備の考え方

樹木伐開、河道掘削、引堤等により河積を確保する。河道掘削等にあたっては、**良好な河川環境の保全・創出**に努める。

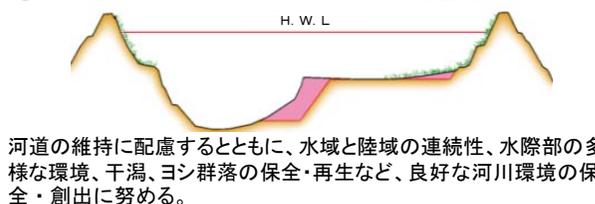
①樹木伐開

河道内樹木(一部を伐開)



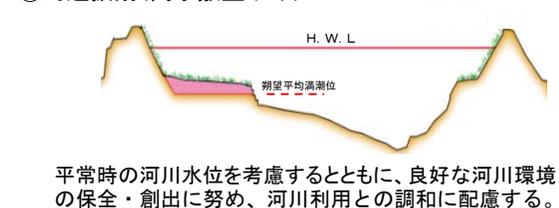
一部、流下阻害の一因になっている樹木について、必要最小限の伐開を行う。

③河道掘削(河岸掘削)



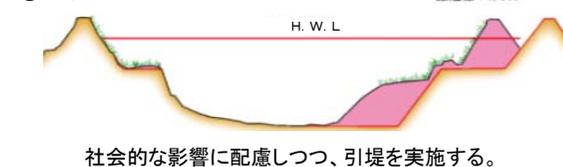
河道の維持に配慮するとともに、水域と陸域の連続性、水際部の多様な環境、干潟、ヨシ群落の保全・再生など、良好な河川環境の保全・創出に努める。

②河道掘削(高水敷盤下げ)



平常時の河川水位を考慮するとともに、良好な河川環境の保全・創出に努め、河川利用との調和に配慮する。

④引堤



社会的な影響に配慮しつつ、引堤を実施する。